

座談会 日時：2026年5月30日 PM3:30~5:30 その後懇親会

場所：縮小社会研究会事務所での対面及びオンライン <https://us02web.zoom.us/j/81883438813>

イラン攻撃による日本への影響

ロシアによるウクライナ戦争、イスラエルのガザでのジェノサイド、イスラエルに後押しされたトランプ大統領のイランへの軍事攻撃と、各地で広がる戦争の中で、化石燃料の問題やエネルギーの課題をめぐって、さまざまな危機的状況が広がりつつあります。日本社会を見ても、高市首相の総選挙での圧勝による「一強体制」のもとで行先が見えないような混乱状態が生み出されつつあります。生活よりも国家体制強化のみを目指すような勝手な首相の判断は、近いうちに社会的な危機状況につながりかねないとさえ感じています。

このような世界情勢・社会情勢を前に、研究会とは別に、座談会をしようという声が上がりました。話題提供者にまず口火を切ってもらい、それを素材に参加者全員で議論を深めようというものです。

その最初の回を5月30日の午後15時半から2時間ほど開催しようと準備中です。話題提供者は漁野亨理事、テーマは「イラン攻撃による日本への影響」です。対面の参加者は、研究会の事務所に集合してください。時間に余裕のある対面参加者での懇親会も予定しています。

話題提供の概要

2/28以降のイスラエルとUSAという狂人が首脳の2か国による国際法を全く無視したイランへの攻撃で、それに対して当然の帰結としてホルムズ海峡の封鎖が行われました。

世界経済(とりわけ東アジア諸国)の経済に対する影響がはかり知れなくなるという状態に対して、日本の高市政権はトランプ抱きつき政策以外全く動かないばかりか、他の諸国は必死になって代替え先を探しているにも関わらずガソリン補助金を出して日常の無駄使いを放置しています。同じように危機的状態にあった韓国は大統領府を中心に代替え先を必死になって探し2.73億バレルを確保したと秘書室長が報道発表しました。その上国民には節約を求め、自動車のナンバーによる偶数と奇数で乗る日を決めたりして、節約を求め備蓄はほとんど出さないで過ごしています。もちろん日本向けのナフサは輸出停止にしました。

ナフサの日本の輸入先として中東が45%、国内製造が40%、韓国からの輸入は10%です。特にナフサの不足は深刻で中詰まりなどでは決してなく、4月は実際に半分に減った事実があります。その中で経済の原則から言って余分に確保しようとするのは当たり前のことです。この後どうなるかを考えると値段も上げるし、自分の所の仕事量を確保するのは理の当然です。特にUSAから20倍も確保したと経産省が言ったと言われていますが、値段については一切言っていませんしUSAからの輸入は多く見積もっても2024年度は0.3%ですから6%程度にしかありません。とにかく値段がほとんど明らかになっていないので、どれだけの川下のプラスチック製品が高騰するか分からないのです。今は10%程度の値上げで済んでいます。本当にどのくらい物価が上がるかを考えてみたいと思っています。

参加登録： 事務局(下記)まで会場参加かオンライン参加をお知らせ願います。会場参加は定員(20名)があります。参加費は無料、懇親会は事務所で開催予定(実費1500円程度)徴収